

令和7年度 高知市立学校 学校評価書

学校名 高知商業高等学校

大項目	自己評価			学校関係	
	中項目	小項5. 各部署組織運営活性化目(評価指標・具体的な取り組み)	(1)達成状況・(2)課題・(3)改善策 (1)S達成・A部分達成・B取組(進行)中・C未達成	評価	評価
1 学校生活支援	(1)ビジネスマナーの向上	礼儀正しいあいさつと心を込めた清掃を習慣化する。	(1)概ねB A1 C1 (2)清掃用具が不足しており、担当生徒の人数が過剰。清掃への共通指導が必要。挨拶や掃除は個人によって温度差あり。行事後、テスト期間中に教室の乱れが見られる。 (3)清掃の目的・ゴール・実施方法を明確にし、清掃の習慣化を支援。ビジネスマナー向上に向け、市商賞で服装評価を実施。副主任中心にロッカーや棚の整頓指導。	B	B 多くの生徒が気持ち良い挨拶ができている。
	(2)思いやりのある心の育成	良い言葉・良い態度を育み、互いを支え合う関係づくりを支援する。	(1)概ねB A1 C1 (2)思いやりの心が行動に結びつくようにする必要がある。教員と生徒との距離が近く、敬語が定着していない場面が見られる。QUのクラス単位での分析時間を確保する必要がある。 (3)教員自らがよい言葉遣い、良い態度を示すことや、行事前の事前指導や交流学習に向けた打ち合わせを、夏期に行う。なぜ良い言葉、良い態度が必要かを考えさせる指導を行う。QU分析の時間を設定する。	B	B ビジネスマナーの視点で、言葉遣いの改善を図ってほしい。
	(3)皆勤・精勤を増やす支援	精皆勤の指標目標実現に取り組む。	(1)概ねB A0 C1 (2)卒業式は精皆勤でなく皆勤のみ表彰を検討。遅刻、欠席生徒の固定化が見られ、個々に応じた指導が求められる。科・コースによって、治療による遅刻早退が多くみられた。生徒への体調管理の指導が必要。 (3)卒業式だけでなく、各学期での表彰を検討。遅刻への対応より健康管理支援を重視。遅刻、欠席を重ねる生徒へ面談を含めた継続的な予防指導を行う。	B	B 指標は達成している。体調面にも気を付ける必要がある。
2 学びへの支援	(1)授業規律の徹底	生徒が主体的になる学びの場づくりとベル着・分離礼の実施への支援を、授業で取り組む。	(1)概ねB. A1・C0 (2)授業規律では、クラス間に差。朝読書用の本準備不足で始業ベルまでの着席の遅れや、移動教室での遅刻あり。市商祭期間中での教室環境の整備に課題。 (3)ビジネスマナーとして定着をめざし、時間管理の指導や日常的な呼びかけによって継続的にベル着・分離礼の指導を行う。授業導入の工夫も図る。	B	B 探究的な学びに取り組んでいる。
	(2)授業実践スタンダードの実施	①到達目標、授業の流れを、明示して説明する。 ②学校全体の一貫した教育方針として、授業実践スタンダードを活用した授業づくりに取り組む。	(1)概ねB. A1・C1 (2)生徒に十分浸透していないのではないか。研究授業以外でも実践スタンダードを明示・徹底する必要がある。 (3)進路指導やLHRでの実践、始業式・ホームルームでの確認を継続する。ゼロベースから創り出す授業方針も検討する。学ぶ意識を高めるため、本時の到達目標やつきたい力を厳選して提示する。	B	B 探究的な学びに取り組んでいる。
	(3)高いレベルの検定等の取得・合格	各種検定取得等の指標実現に取り組む。	(1)概ねB. A1・C1 (2)検定への学習動機が十分に持っていない生徒もいる。家庭学習の支援や受験生への学習環境の提供が必要。 (3)教科・進路指導と連携した説明の強化。検定月間・検定週間での授業担当者・主任・副主任による協力体制を強化する。学習環境の整備に向け、予算確保につながるよう働きかける。大学の有資格入試に関する周知を強化し、1・2月検定試験を商業科と連携する。	B	B 資格取得は学校全体で取り組んでいる。なお一層の充実を図ってほしい。
3 カリキュラム改革	(1)DX人材の育成	本校におけるDX人材育成を推進するカリキュラムや授業づくりに取り組む。	(1)概ねB, A1, C0 (2)龍馬生誕190周年記念プロジェクトマップの制作と投影、メタバース空間の活用に取り組めた。現状の課題として、専門知識・技能のさらなる習得の必要性や、授業準備に時間がかかる点が挙げられる。 (3)役割分担の明確化、長期計画の見直しを行う。DXハイスクール事業に挑戦し、新たなICT機器の充実を図り、教材・環境の整備で授業準備と専門性の向上につなげる。	B	B プロジェクトマップには、600名を超える観客が集まった。

	(2)探究活動、個別最適化や協働的な学習の実施	全教科で探究活動、個別最適化・協働的な学習を計画し実施する。	(1)概ね B、A5、C0 (2)探究活動と個別最適化・協働学習の計画・実施にあたり、データや根拠の質の向上が必要、外部訪問先での配慮不足や保健所基準強化に伴う交渉増加が課題。 (3)大学・企業等の質の高いデータ分析の手法を参考にしたカリキュラム構成、教職員の負担の分担、教科横断的な連携体制の構築を進める。生徒が「自分ごと」として取り組める仕組みを整備する。習得と活用を重視した授業設計や協働を促す仕掛けも導入する。	B	B	修学旅行を活用した企業研修等、実社会と繋がる体験ができています。
	(3)高いレベルの進路実現と選ばれる学校	進路決定・国公立大学合格・体験入学者・入学選抜受検者の指標目標実現に取り組む。	(1)概ね B、A2、C1 (2)入試や進路指導面では、案内や申込のデジタル化に対応する必要がある。アントレ教育の充実、有名私大指定校枠確保も課題。合格後進路先から求められる課題に向き合う意欲が低い生徒が見られた。 (3)受験準備として受験計画書の作成を促すとともに、出題傾向に合わせた指導で進路達成を支援する。	B	B	2/13 現在国公立大 53 名合格。今後 10 名以上が国公立に挑戦する。
4. 市商マネジメント力の育成	(1)コミュニケーション力を育成する支援	生徒の協働的な学びを計画し実施する。	(1)概ね B、A1、C2 (2)評価の統一性や科ごとの独自性の調整が必要。プロジェクトワーク (PW)・グループワーク (GW) における班内でのルーブリック評価が甘くなる傾向がある。 (3)実践の継続と先を見通した計画策定、関係分掌と科・コース間の連携強化を進める。事前・事後のルール徹底や対話・ファシリテーション力の向上を図り、教職員の引継ぎと教材のポートフォリオ化により教育課程が継続的に実施される体制を整備する。	B	B	課題研究発表会等で生徒が学び合う姿が見られた。
	(2)課題発見・課題解決力を育成する支援	潜在的問題や改善点の発見、発見した課題に対して解決・実行・成果を出す力の育成を計画し実施する。	(1)概ね B、A4、C3 (2)研究報告書や関連資料の充実が必要。実社会の課題との関連付けが弱く、取組評価後のフィードバックが不十分なため、改善点にたどり着けていない。 (3)時事や社会事象に目を向けた題材選定。調査・体験を重視した学習の推進。活動を精選して、質を高めるとともに振り返りの時間を確保する。知識の関連付けによる課題解決や未知の課題を思考させる仕掛けを導入し、評価→フィードバック→改善のサイクルを確立する。	B	B	課題研究発表会等で生徒が課題から行動につなげた学習活動が見られた。
	(3)プレゼンテーション力を育成する支援	自らの言葉で発表・説明する力や論理的に表現する文書・資料作成力の伸長を計画・実施する。	(1)概ね B、A1、C3 (2)内容を深掘りする指導と評価が不足。生徒間でメモ力・読解力に差。プレゼンテーションは内容の質が問われる時代であり、めざすべき発表のモデル提示が必要。 (3)商業教育と連携した資料作成支援やビブリオバトル等の機会周知を行い、見本となる質の高いプレゼンテーションを構築する。「明るく元気に質の高い発表ができる」生徒の育成を目指し、評価基準の見直しを担当者間で協議する。会社社長のピッチの教材化も検討する。	B	B	ステップアップ市商会議等で成長が見られた。
	(4)講義理解力を育成する支援	講義によるメモ力・論述力・討論力につながる学習・活動を計画し実施する。	(1)概ね B、A1、C1 (2)論理的な文章作成や討論につなげる力が不十分。理解した内容を論述・討論で表現する力をつける必要がある。 (3)メモ量とメモを取る機会を増やして習慣化し、学んだことを言語化して発表する機会を増やす。討論力向上を目的としたディベートの計画を立て、ICT を活用した情報提供・資料提示で段階的に能力を高める。	B	B	工夫して支援がされている。
	(5)ICT・英語活用力を育成する支援	ICT を活用した学習活動や生成 AI に対応するタブレット活用力伸長を計画し実施する。	(1)概ね B、A2、C2 (2)資料活用状況や、Canva 等のツール・AI の利用状況を明確に。生成 AI による作成か本人執筆かの判断が困難。 (3)教員・生徒を対象に AI 活用の望ましい方法を専門家から学ぶ機会を設ける。生成 AI を「どのように」「なぜ」使うかを意識させる指導を行う。	B	B	生成 AI と対話しながらの授業スタイルが見られた。
		英語でコミュニケーションできる力の伸長を計画し、実施する。	(1)概ね B、A1、C2 (2)全商英語検定の合格者や英語で話す回数は増加したが、学校・社会生活で必要な英語運用力の向上が課題。 (3)新しい場面での英語活用場を設定し、留学生受け入れや交流機会を設ける。身体動作を取り入れたアクティビティと組み合わせ、使用語彙や表現を意識したアウトプット活動を実施して表現力を高める。	B	B	生成 AI と対話しながらの授業スタイルが見られた。

	(6)察する力を育成する指導	生徒の自主性・創造性を支援する。	(1)概ねB、A0、C1 (2)生徒が受け身になり課題を自発的に見つけられない場面があるため、教員による場の設定と気づきを促す支援が必要。場面ごとの気づきの差や、気づきの少なさへの個別対応も課題。 (3)生徒同士のつながりを活用した学習環境の設定、教員の「待つ指導」による気づきの促進、教員からの適切なアプローチで気づきや行動を引き出す。客観的データを用いて課題発見を促し、生徒が自分に足りない力やつきたい力を自覚させ、主体的な学習態度を育成する。	B	B	課題研究発表会等で生徒の学習成果が見られた。
	(7)失敗から学ぶ力を育成する支援	生徒の挑戦する力を支援し、振り返る力を伸長させるための機会を設定する。	(1)概ねB、A3、C1 (2)生徒の主体性と教員の指導のバランスを改善する必要がある。進路達成や検定合格後にモチベーションが低下するケースや、他者評価を通じた自己課題の発見が課題。MBOOKの活用状況、振り返りの時間確保も課題である。 (3)夏季休業中に次年度計画の打合せ・分析を行い、指導方針を整理する。MBOOKを活用した振り返りと提出物管理を徹底し、縦（先輩・後輩）・横（同学年）での対話の機会を設定して段階的に改善を進める。	B	B	課題研究発表会等で失敗から学ぶ姿勢を大切にしている生徒の姿が見られた。
5. 組織運営の活性化	(1)令和7年度最重点の計画・取組を各部署で設定	部署別に重点計画を策定、年度当初共有、1・2学期に評価・振り返り、3学期に次年度重点を設定する。	(1)概ねB、A1・C0 (2)重点原案は、部員の意見も集約した上で作成する必要がある。生徒の主体性と指導のバランスや各学年担当と連絡調整が不十分。R8の行事予定が大きく変わるため注意。他会議との重なり、日程調整や参集が困難であった。 (3)年度当初に部員意見をまとめて重点目標を設定。安全・緊急事案には教員が強く介入する。年度当初に会議時間を調整し、担当行事前の部内打合せとマニュアル作成で運用の標準化を図る。学校行事予定表上に教育相談担当者会を明示。学年会の定期開催（市商祭期間・修学旅行・進路関係）を検討し、評価・振り返りの共有を図り、次年度重点設定へつなげます。	B	B	自己評価を尊重する。
	(2)部署独自PDCA、年間計画、役割分担表等の全体共有	独自PDCA・年間計画・役割分担を年度当初に作成し、全体で共有する。また部署での振り返りに活用する。	(1)概ねB、A0・C1 (2)担当行事前の事前打合せは行っているものの、役割の偏りや固定化があり、担当不在時に業務が滞るケースがある。役割分担表の周知・確認や学年担当間の連絡調整が不十分で、日常の声掛けや学年内での問題・成果共有も弱く、学期数回の学年会では十分な共有・振り返りができていない。 (3)他分掌との連携強化と関係教員への聞き取りによる改善策提示、年度当初の役割配置を試行する。部長・副部長が進捗確認で業務を掌握し、明確な役割分担表の整備・周知と定期的な部会・学年会を実施する。日常的な対話を重視し、共有文書は重点を簡潔に示して常時意識できるようにする。学期末（3学期）に振り返りを行い次年度計画へ反映。必要時には役割を超えた支援を行い、授業担当者・学年・科コースの意見を集約して授業内容の検討・改善を進める。	B	B	自己評価を尊重する。
	(3)年間を見通した計画・改善・スクラップに取り組む	サポートシートに業務改善につながる欄を設け、カリマネ委員会でも共有する。	【成果】長期休業中の職朝回数減、部活予定表活動無し文書廃止。授業アンケート（年2回）文書廃止、提出文書の簡素化。事務連絡及び配付文書等は可能な限り掲示板。メッセージ等で電子送付。 毎年6月保護者対象の進路講演会をPTA総会に組み込んだ。ジョブカフェ高知の講演会を無くした。夏休み国公立講座の実施回数減。 【課題・改善方策】サポートシートに業務改善欄を設け共有したが、アナウンスが不十分であった、3学期カリマネ委員会でアナウンスし継続して取り組む。	B	B	自己評価を尊重する。
	(4)責任体制と報告・連絡・相談ルートの明確化	責任者を明確にする。誰に報告・連絡・相談できるのかのルートを明確にする。	【成果】各分掌の役割分担表に基づいて運用している。 【課題・改善方策】担当不在時の対応。業務の固定化（個業化）を防ぐため、年度当初に役割分担の変更や複数制等を検討。	B	B	自己評価を尊重する。

6. 安全・防災教育の推進	(1)学校施設安全チェックの実施	生徒の命を第一に、安全・安全に教育環境の維持・改善のため、日常から報告・連絡・相談・チェックする。	【成果】教職員全体で学校安全総点検を実施し、点検場所を細分化したことで、教職員一人ひとりの安全意識を一層高めることができた。 【課題・改善策】令和6年度、令和7年度の点検で同じ箇所があげられていたが、引き続き報告する。教職員の安全に対する意識を高めるためにも次年度も実施する。	B	B	教職員全体での安全点検を継続してほしい。
	(2)安全教育の充実と危機対応の向上	安全教育につながる研修の計画・実施や危機管理マニュアルの見直し、更新、改訂に取り組む。	【成果】危機管理マニュアルに海外留学に関するリスクを想定した対応項目を追加した。教職員研修で最新の南海トラフ地震について全教職員で情報共有ができた。また、防災活動の推進として教職員と生徒が協力し、マンホールトイレ設置訓練を実施した。 【課題・改善策】地震等の自然災害が発生した場合、現在の避難経路は安全ではなく、季節ごとに避難経路の見直しが必要である。教室、特別室、体育館の施錠確認及び消灯管理が年間を通して不十分であった。続く場合は必ず口頭で確認を行うようにする。	B	B	安全教育については日々アップデートが必要である。
7 改善力のある組織体制づくり	(1)危機管理三大原則の徹底	①不登校・いじめ等に関して情報収集（アンケートを含む）を実施する。 ②報告・連絡・相談を定期的に行う場の設定、緊急時の窓口は教育相談班に1本化して取り組む。 ③適切な初期対応を行えるように、迅速にチームを立ち上げ、役割と連携を明確かつ組織的に対応する。	【成果】教育相談担当者会8回実施、いじめ対策検討委員会3回実施。本年度から週に1回、教育相談班内での情報確認・共有を行い、迅速に対応できる体制づくりにつなげた。また、外部機関（5団体）と連携し、学校だけでは解決が難しい問題に取り組んできた。 【課題・改善策】家庭や生徒間での悩みを抱える生徒が増加した。生徒一人ひとりへの支援に加え、保護者との面談等もあり、相談班の人員だけの対応では追い付かなくなっている。生徒支援部からのサポートの依頼をはじめ、広く支援体制を検討する。	A	A	外部機関と連携により、休日等に生徒を見守る体制が取れるようになってきている。
	(2)Well-beingの実現	①明るく元気よく生徒の範となる挨拶を教職員から、実施する。 ②教育公務員としての倫理観、規範意識、法令遵守にもとづいて行動する。	【成果】生徒部を中心とした朝の挨拶により生徒の挨拶が習慣化した。商業高校のある旭地区が安心、安全に通学できるように、旭地区の会議（あさひのこどもを守る会/旭地区町内連合会/旭地区青少年育成協議会等）で情報共有を行い、地域全体で生徒を見守るために挨拶も含め朝の交通指導を実施した。 【課題・改善策】教職員の服務規律の確保については職員会等で研修機会を設けて行ってきた。「(2)思いやりのある心の育成」の課題にもでているので、職場の職員相互での規律の共通認識を図っていく。	B	B	いつ学校に来ても生徒から気持ち良い挨拶が帰ってくる。
	(3)働き方改革に向けた取り組み	高知市立学校教職員の働き方改革プラン（第3期）の推進に取り組む。	【成果】庶務事務出退勤システムと Groupware 出退勤の活用で教員自身の勤務状況をより正確に把握することができるようになった。 【課題・改善策】月45時間以内78%以上の数値目標は11月までで72%、月80時間超過11%以下は12%であった。年度末には数値目標を近づけていく。4月から学校運営協議会の導入を検討してきたが教員・PTA・地域の役員の3者の日程調整合わず開催できなかった。令和8年4月開催に向けて準備を進めていく。7時間目授業の見直しについては年度末に科・コース会で理由を含めて集約をしていく。	B	B	健康には注意しながら改革を進めてもらいたい。

<p>8・総合評価</p>	<p>高知と社会に貢献し 進学にも就職にも強い 元気のある 選ばれる商業高校</p>	<p>学校経営方針に掲げる学校のめ ざす姿の達成状況について、重点 教育計画マネジメント指標の推 移・結果や、学校評価アンケート、 学校運営協議会・学校評価会の結 果等をカリマネ委員会等で分析 する。また成果・課題を明らかに し、次年度の学校経営ビジョン・ 重点教育計画の策定に役立てる。</p>	<p>【成果】 マネジメント指標等から ＜体験入学参加者等＞ 学校数 R6 72 校 → R7 70 校 ↓ (▲2) 中学生 R6 815 人 → R7 808 人 ↓ (▲7) 保護者教員 R6 310 人 → R7 317 人 ↑ (+7) ・合計 1,125 人の参加者となった。「中学生や保護者から 選ばれる学校」として、今後も体験入学や中高連絡協議 会、高校説明会 (R7 58 校) 市商祭 (文化祭来場者 4,321) 等を通して本校の魅力を発信する。 ＜進路面＞ <u>12月現在</u> 進路決定率 R6 83.2% R7 85.4% ↑ 就職①公務員 R6 11 人 → R7 3 人 ↓ 〃 ②民間 R6 19 人 → R7 19 人 - 国公立大学 R6 50 人 → R7 49 人 ↓ ・進路面では、国公立大学合格 (現在 49) や希望進学先、 就職内定 (現在 19) を含め多くの生徒が進路を決定 (85.4%) した。進路部を中心として国公立講座や小論 文・面接指導など、教職員による献身的な生徒支援の成 果である。引き続き粘り強い進路指導を継続する。 ＜検定1級3種目以上＞ <u>R6 末</u> 66 人 → R7 62 人 ＜卒業時1級取得＞ <u>R6 末</u> 194 人 → R7 200 人 ↑ ・検定取得に向けて、補習期間を設定し生徒の学習時間 を確保し仲間とともに目標に向かい学びあう環境づくり ができています。商業科・英語科を中心に生徒への学習指 導支援の成果である。 ＜B3以上の人数＞ R6 1年 21% R7 1年 27% ↑ R6 2年 18% R7 2年 17% ↓ R6 3年 13% R7 3年 18% ↑ ・特に情報マネジメント科2年生は、 B3以上 R6(1年生)23% → R7(2年生)31% ↑ ・全教員が授業力を高めるために、「生徒の興味関心を引 き出し、主体性を育む探究的な学びの実現」をテーマに 研究授業及び参観授業を実施。事後検討会を通して、生 徒の姿から教職員同士が学びあうなど教材研究や授業改 善に努めており、個々の授業力向上につながっている。 ＜全国大会出場＞ R6 12 種目 (運動部 5・文化部等 7) R7 18 種目 (運動部 9・文化部等 9) ↑ (+6) ・スポーツ、文化、生徒会、芸術、商業技術など教育活 動の学びが全国大会出場という成果につながっている。 ＜高校入試申込人数＞ R7 選抜 337/280 人 (1.20 倍) R8 選抜 314/280 人 (1.12 倍) ※出願期間 R8. 1/27～1/29 【課題・改善策】 ・部活動は、教員の長時間労働や専門性不足、少子化に よる運営困難など複合的な課題があり、持続可能な体制 へ見直す。具体的には、3年間部員数ゼロの部活動等は 廃止する等の整理を行う。 ・学習面では、提出物の未提出や自主学習時間の不足、 受験対策の不十分さが課題である。提出物の締切遵守と 優先度の周知を、生徒に粘り強く伝えていく。また、締 切日までに提出できなかった理由 (背景) を聞いて改善 につながる指導を行う。 ・教育相談や重大事案への対応強化のため、校務分掌や 人員配置などの役割分担を見直す。 ・施設・設備の老朽化や教育活動に必要な備品・消耗品 不足に対応するため、予算要求を継続し、生徒にとって より良い教育環境の整備と中学生や保護者から選ばれる 学校をめざします。</p>	<p>B</p>	<p>A</p> <p>全学科で 高校入試 の倍率が 1倍を超 え、選ば れる学校 を維持で きてい る。</p>
---------------	--	--	---	----------	---